

製品名: TAX1BP3 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86903**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,FC 1:100-1:200
分子量	Calculated MW:14 kDa; Observed MW:14 kDa

抗原情報

遺伝子名	TAX1BP3
別名	TIP1; TIP-1
遺伝子 ID	30851
SwissProt ID	O14907
免疫原	ヒト TAX1BP3 の合成ペプチド

背景

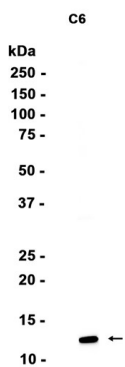
この遺伝子は、単一の PDZ ドメインを持つ小型で高度に保存されたタンパク質をコードしています。PDZ (PSD-95/Discs large/ZO-

1 相同) ドメインは、細胞シグナル伝達、接着、タンパク質の足場、受容体およびイオントランスポーターの機能に影響を与えるタンパク質間相互作用を促進します。コードされているタンパク質は、シグナル伝達経路で役割を果たす多数の標的タンパク質と相互作用します。たとえば、Rho A およびグルタミナーゼ L と相互作用し、Wnt/ β -カテニンシグナル伝達経路の負の調節因子としても機能します。このタンパク質は、T 細胞白血病ウイルス (HTLV1) Tax ががん性タンパク質に結合するタンパク質として初めて特定されました。この遺伝子の過剰発現は、がん細胞の接着、遊走、転移の変化に関係していることが示されています。コードされているタンパク質は、内向き整流性カリウムチャンネル 2.3 (Kir2.3) の局在と密度も調整します。これまでに、このタンパク質は細胞増殖、発達、ストレス応答、分極化において役割を果たすことが示されています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2017 年 4 月]

研究分野

-

画像データ



TAX1BP3 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した C6 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。